

第2章

学校施設の実態

本章では、学校施設の整備状況や児童生徒数等の推移、また、本市の財政状況の傾向や学校施設関連経費の推移など、学校施設を取り巻く現状について把握するとともに、老朽化状況の実態を明らかにします。

1. 学校施設の現状

(1) 学校施設の整備状況

本市の学校施設は半数が築40年以上経過し、経年による老朽化が進んでいる状況です。昭和56(1981)年以前の旧耐震基準※による学校施設は耐震化が完了していますが、屋上や外壁の改修や上下水道配管・設備機器の更新等は、不具合の改修など部分的な対応に留まっています。

第一小学校、第二小学校、第三小学校及び第二中学校の4校では、その一部が築60年を経過した校舎もあり、経年により老朽化した学校施設への対応が重要な課題となっています。

※旧耐震基準とは、建築物の設計において適用される構造基準で、昭和56(1981)年5月31日までの建築確認において適用されていた基準のこと。また、その翌日以降に適用されている基準を「新耐震基準」という。図2-1では、旧耐震基準を昭和56(1981)年以前、新耐震基準を昭和57(1982)年以降と表記している。

■ 築年別整備状況

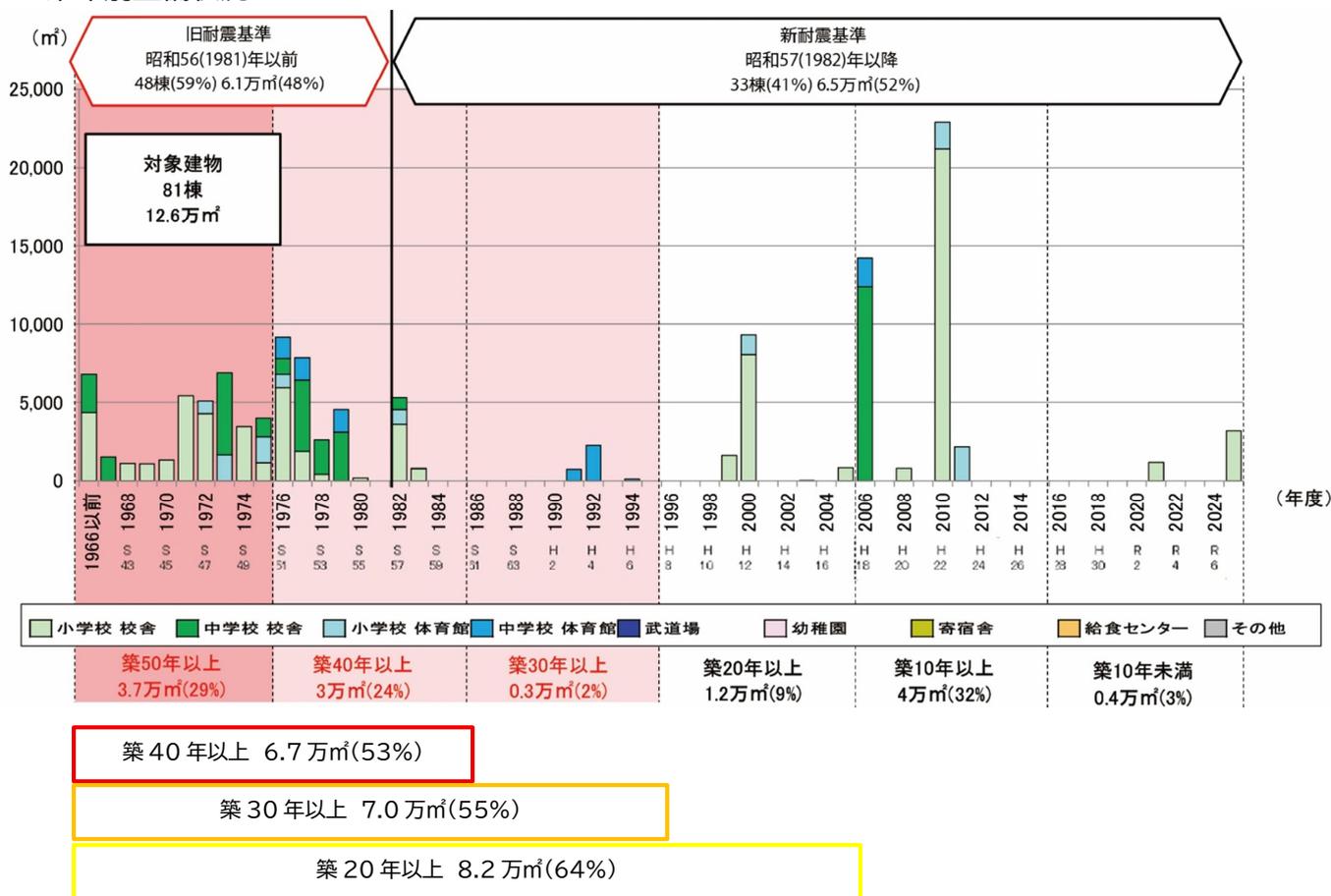


図 2-1 対象施設の築年別整備状況

■対象施設の建物概要一覧

学校名	施設名	構造	階数	延床面積 (㎡)	建築年		築年数 (R7年度基準)		
					和暦	西暦			
小学校	第一小学校	校舎	RC	4(一部3)	6,833	S36	1961	64	
		体育館	S	2	805	S47	1972	53	
		プール施設	RC	1	42	S39	1964	61	
	第二小学校	校舎	RC(一部S)	4(一部1~3)	5,175	S34	1959	66	
		体育館	S	2	812	S48	1973	52	
		プール施設	RC	1	35	S54	1979	46	
	第三小学校	校舎	RC	4(一部3)	5,674	S38	1963	62	
		体育館	S	2	816	S48	1973	52	
		プール施設	RC	1	23	S36	1961	64	
	第四小学校	校舎(*1)	RC	4(一部2)	10,207	H22	2010	15	
		体育館(*2)	RC	2	1,675	H22	2010	15	
	第五小学校	校舎(*1)	RC	5(一部1)	12,144	H22	2010	15	
		体育館(*2)	RC	2	2,131	H22	2011	14	
	第六小学校	校舎	RC	4(一部2)	7,324	S46	1971	54	
		体育館	S	2	819	S50	1975	50	
		プール施設	RC	1	88	S46	1971	54	
	第七小学校	校舎	RC	4(一部3)	5,635	S47	1972	53	
		体育館	S	2	809	S50	1975	50	
		プール施設	RC	1	107	S47	1972	53	
	第八小学校	校舎	RC	4	7,225	S51	1976	49	
		体育館	S	2	840	S51	1976	49	
		プール施設	RC	1	107	S51	1976	49	
	第九小学校	校舎	RC	4	4,725	S57	1982	43	
		体育館	S	2	940	S57	1982	43	
		プール施設	RC	1	41	S57	1982	43	
	第十小学校	校舎(*3)	RC	4	8,306	H12	2000	25	
		体育館	RC	2	1,240	H12	2000	25	
		プール施設	RC	1	159	H12	2000	25	
	中学校	第一中学校	校舎(*4)	RC	4	12,386	H18	2006	19
			体育館	RC	2	1,836	H18	2006	19
第二中学校		校舎	RC(一部S)	3(一部1,2)	6,240	S40	1965	60	
		体育館	S	2	1,328	H4	1992	33	
		武道場	RC	2	903	H4	1992	33	
		プール施設	RC	1	58	S57	1982	43	
第三中学校		校舎	RC	4	6,288	S48	1973	52	
		体育館	S	2(一部1)	1,329	S51	1976	49	
		武道場	RC	2	723	H3	1991	34	
		プール施設	RC	1	10	S54	1979	46	
第四中学校		校舎	RC	4	5,341	S52	1977	48	
		体育館	S	2(一部1)	1,460	S52	1977	48	
		プール施設	RC	1	10	S52	1977	48	
第五中学校		校舎	RC	4	4,191	S53	1978	47	
		体育館	S	2	1,494	S54	1979	46	
		プール施設	RC	1	26	S54	1979	46	

凡例 構造・RC:鉄筋コンクリート造、S:鉄骨造

注1) 構造、階数、延床面積は、学校施設台帳(令和7年度)の数値を記載し、延床面積は複数棟の合計、建築年は最も古い棟の建築年とした。

注2) 「プール施設」は、構造をプール槽の構造、その他の項目をプール付属棟について示した。

注3) 築年数は令和7(2025)年度を基準とした。

(*1) 自校給食施設・放課後児童クラブを含む

(*2) プール施設は含まない

(*3) 自校給食施設を含む

(*4) 校舎内の放課後児童クラブを含む

(*5) 武道場及びプール施設を含む

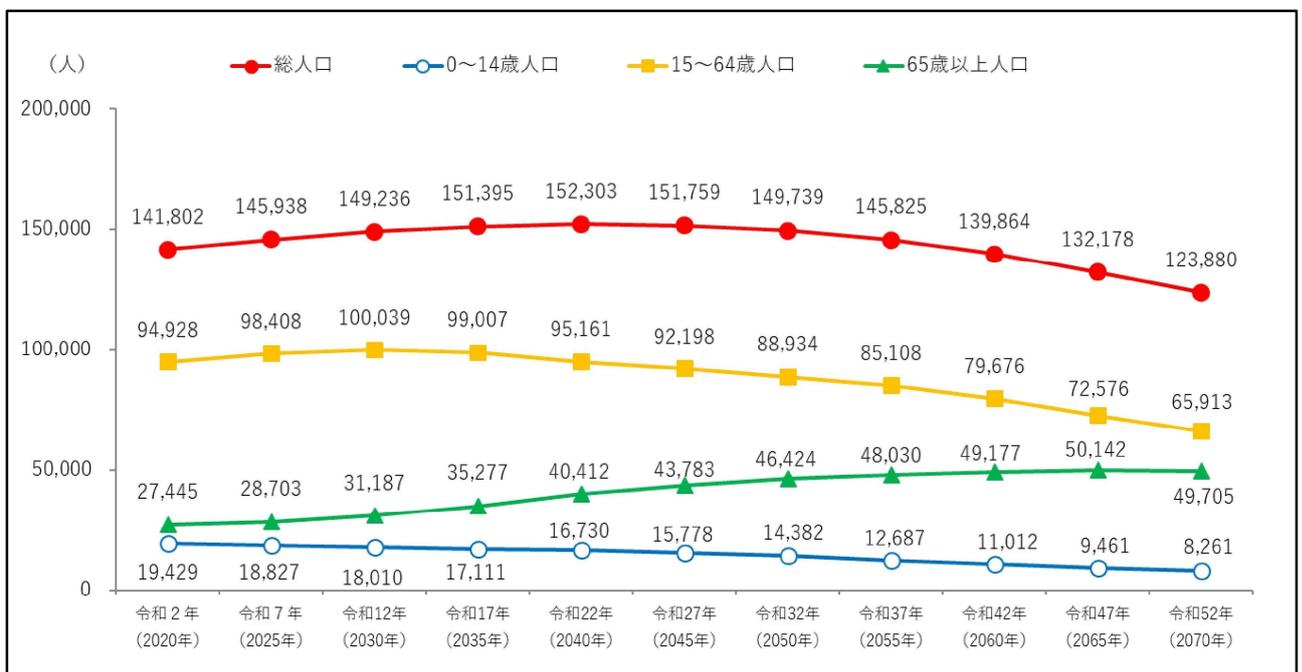
表 2-1 対象施設の構造等一覧

(2)人口及び児童生徒数、学級数の推移

本市は、市域面積 18.34km²、人口 14 万 5,938 人(令和 7(2025)年 1 月 1 日現在)であり、東京都心まで 20 km 圏内にあるため都心への通勤の利便性が高く、また、子育て世代の割合が高いことから、人口の増加傾向が続いています。

駅周辺での集合住宅の建設や、市街化区域に編入された地域や農地の宅地開発が進んでいるため、本市の人口は微増傾向が続くものと推計されています。

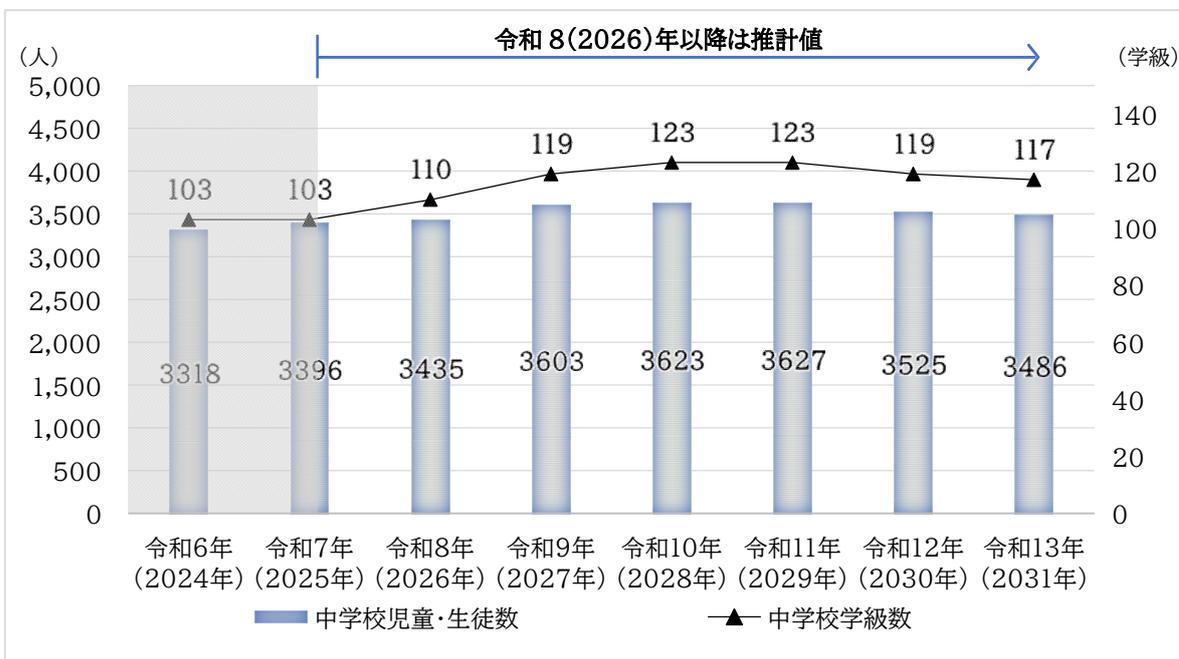
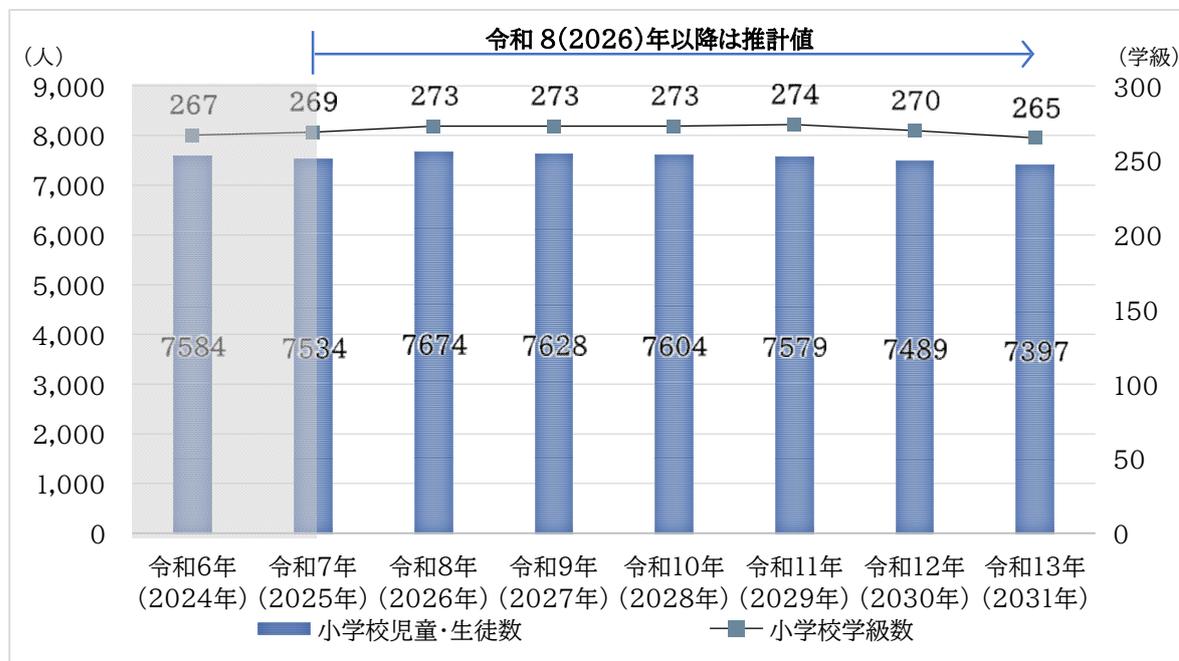
第6次総合計画策定にあたって実施した人口推計によると、今後は出生率が低下しながらも、転出入が緩やかに均衡に向かうことが想定され、人口は令和22(2040)年度まで増加傾向が続き、現在の人口規模(14万人超)は、令和37(2055)年度頃までは維持される見通しとなっています。



出典:第6次朝霞市総合計画

図 2-2 本市の将来人口推計

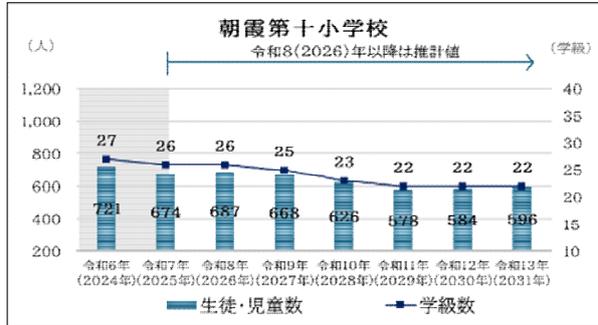
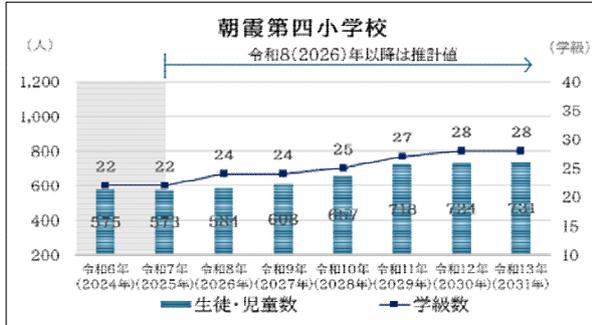
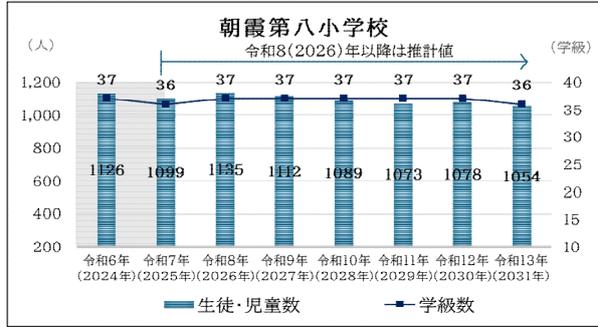
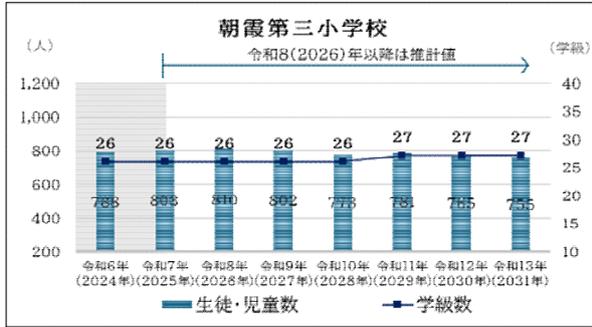
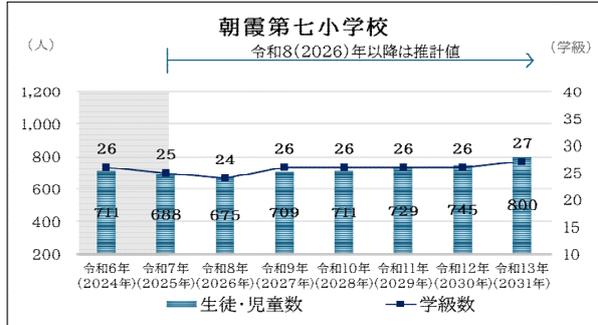
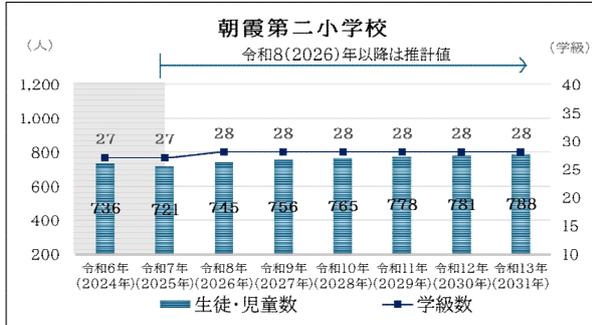
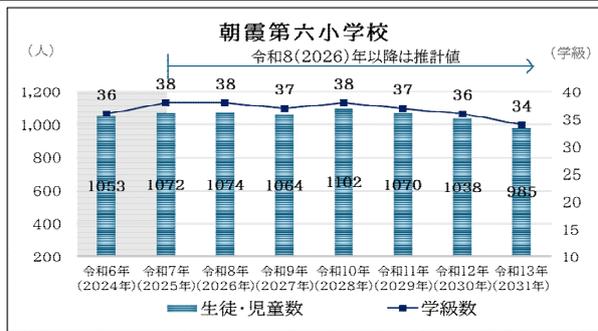
児童生徒数の総人数は、令和7(2025)年5月1日時点で、小学校は7,703人、中学校で3,453人となっています。小学校の児童数の推計は、令和8(2026)年をピークに緩やかに減少傾向に転じていくことが見込まれますが、中学校生徒数及び児童生徒数の総数は令和11(2029)年まで増加していくことが見込まれています。



出典：学校基本調査(令和7(2025)年5月1日)

- 注1 令和6(2024)~7(2025)年度の児童数(特別支援学級を除く)は実数です。
- 注2 令和8(2026)年度以降の児童数(特別支援学級を除く)は、住民基本台帳による数値に人口増減等の各統計平均人数を加除しています。
- 注3 学級数は小学校は全学年で35人学級とした数、また、中学校は令和8(2026)年度以降段階的に35人学級とした数です。
- 注4 令和8(2026)年度以降の特別支援学級は、各年度に令和7年度の学級数を加算しています。

図 2-3 児童生徒数・学級数の推計



出典:学校基本調査(令和7(2025)年度 5月1日)

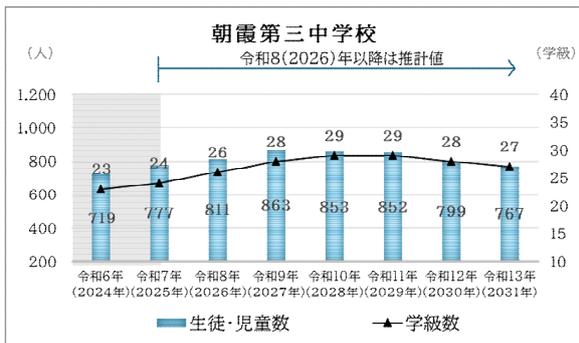
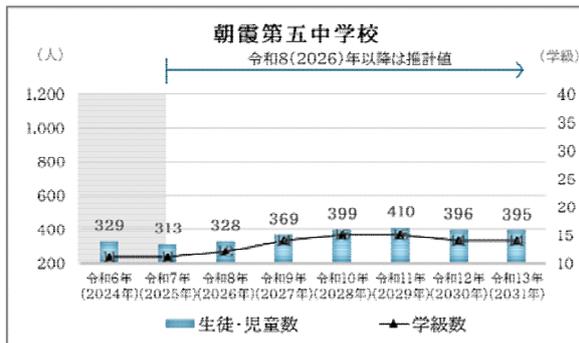
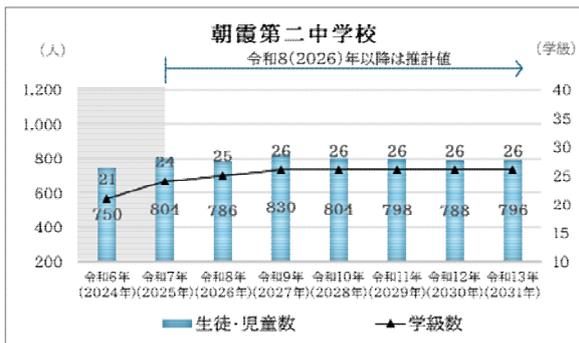
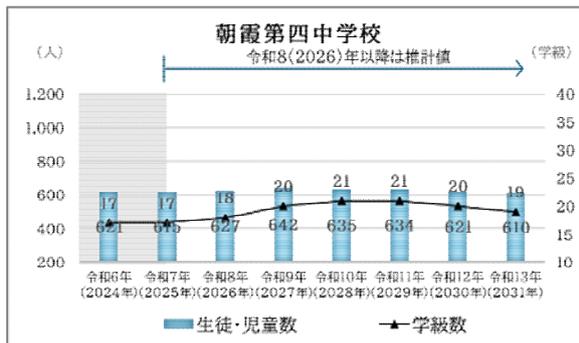
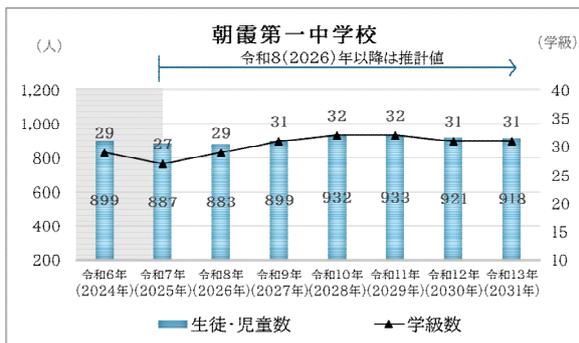
注1 令和6(2024)~7(2025)年度の児童数(特別支援学級を除く)は実数です。

注2 令和8(2026)年度以降の児童数(特別支援学級を除く)は、住民基本台帳による数値に人口増減等の各統計平均人数を加除しています。

注3 学級数は小学校は全学年で35人学級とした数、また、中学校は令和8(2026)年度以降段階的に35人学級とした数です。

注4 令和8(2026)年度以降の特別支援学級は、各年度に令和7年度の学級数を加算しています。

図2-4 学校別児童数・学級数の推計(小学校)



出典：学校基本調査(令和7(2025)年度5月1日)

- 注1 令和6(2024)～7(2025)年度の児童数(特別支援学級を除く)は実数です。
- 注2 令和8(2026)年度以降の児童数(特別支援学級を除く)は、住民基本台帳による数値に人口増減等の各統計平均人数を加除しています。
- 注3 学級数は、令和8(2026)年度以降段階的に35人学級とした数です。
- 注4 令和8(2026)年度以降の特別支援学級は、各年度に令和7年度の学級数を加算しています。

図 2-5 学校別生徒数・学級数の推計(中学校)

(3) 施設関連経費の把握

ア. 財政状況の傾向

本市の歳入における主要な財源である市税収入が近年増加している一方で、歳出は福祉サービスや保育などに係る社会保障関係経費が増加傾向にあり、歳出全体に占める割合は、年々増加しています。今後も扶助費や人件費を中心とした義務的経費の増加のほか、公共施設の改修などの普通建設事業費の増加も見込まれるため、厳しい財政環境が続くことが見込まれます。

イ. 施設関連経費の推移

過去5年間の学校施設における施設関連経費は、年間約4.16億円～5.45億円で、1年当たりの平均は4.90億円となります。そのうち、光熱水費や施設運営に係る委託費等の経常的にかかる費用（施設管理費）は、1年当たりの平均が約3.20億円となり、施設関連経費の約65%を占めています。

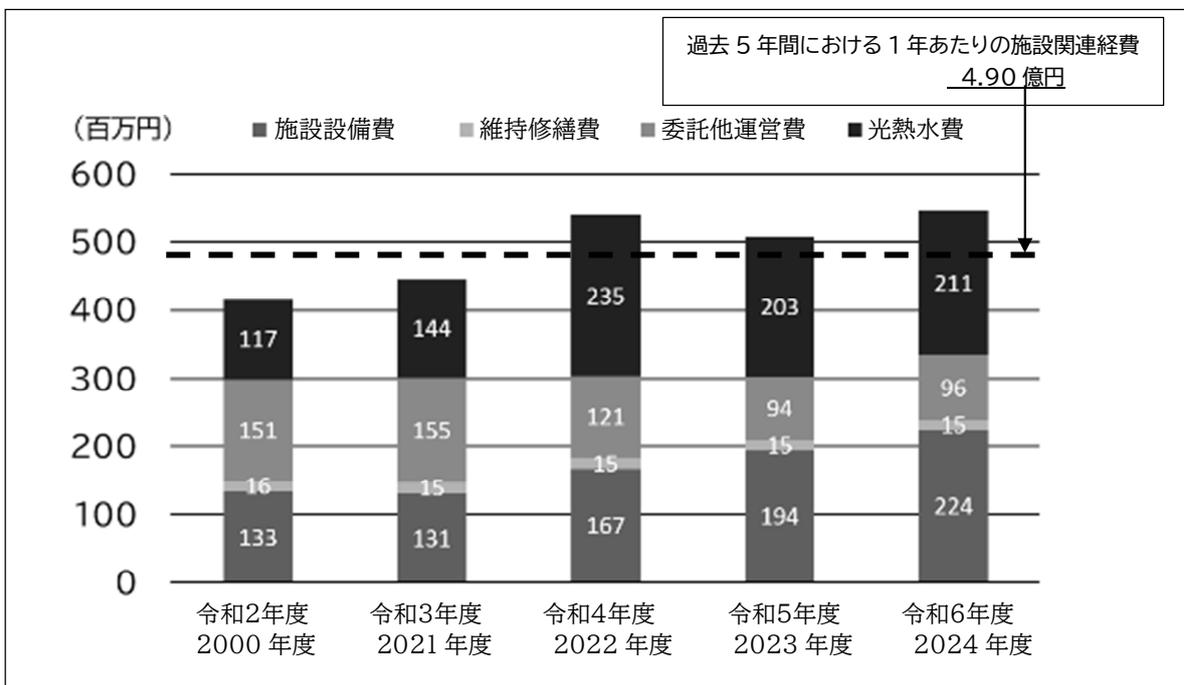


図 2-6 施設関連経費の推移と内訳

内訳	令和2(2020)年度	令和3(2021)年度	令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	令和6(2024)年度
施設整備費	133,114,208	131,315,019	167,319,724	193,967,882	223,656,098
施設管理費	283,098,021	314,083,570	371,510,397	312,303,525	322,177,870
維持修繕費	15,686,977	15,121,115	15,450,743	15,114,643	14,839,706
委託他運営費	150,513,802	154,995,565	121,198,329	94,266,281	96,365,405
光熱水費	116,897,242	143,966,890	234,861,325	202,922,601	210,972,759
合計	416,212,229	445,398,589	538,830,121	506,271,407	545,833,968
施設関連経費の平均		4.90億円/年			
施設管理費の平均		3.20億円/年			

表 2-2 施設関連経費の平均(5年間) (単位:円)

2. 学校施設の老朽化状況の実態

学校施設の改修の方針や時期等を検討するため、学校施設が今後どの程度の期間使い続けることができるのか、建物の状況を整理しました。

構造躯体の健全性と長寿命化の可否の判定は、基本方針策定時の調査結果に準ずるものとし、構造躯体以外の屋根・屋上、外壁、内部仕上げ、電気設備・機械設備については、劣化が著しい建物を中心に現地調査を行い、基本方針策定時の調査結果に改修履歴を反映し総合的に評価を行いました。

(1) 構造躯体の健全性の把握

長期間に渡って建物を安全に使用するためには、構造躯体が健全でなければなりません。

基本方針では、過去に実施した耐震診断時の調査データを用いて長寿命化の判定を行っており、判定の方法の基準を下記のように示しています。

長寿命化の可否の判定方法

ア. 耐震基準による判定

新耐震基準による学校施設は、「長寿命化」対象施設と判定します。

イ. 構造体の強度等による判定

旧耐震基準による学校施設で耐震診断により耐震性がないと判定された校舎・体育館は、全て耐震補強が完了しています。

これらの施設のうち、鉄筋コンクリート造の建物は、耐震診断時のコンクリート圧縮試験の平均強度（以下「圧縮強度」という。）により判定し、コンクリート圧縮強度が「13.5N/mm²」を上回るものを「長寿命化」対象施設とします。

また、鉄骨造の建物のうち築年数が40年未満で腐食や劣化の進行が著しく進行していないものを「長寿命化」対象施設と判定します。

「長寿命化」対象施設ではない施設は、全て「改築」として区分します。

さらに、鉄筋コンクリート造の建物のうち築年数が60年を超えるものは、長寿命化改修を行っても改修後20年以上使用できないことから「改築」対象とします。

次ページに、長寿命化の可否の判定フロー図を示します。

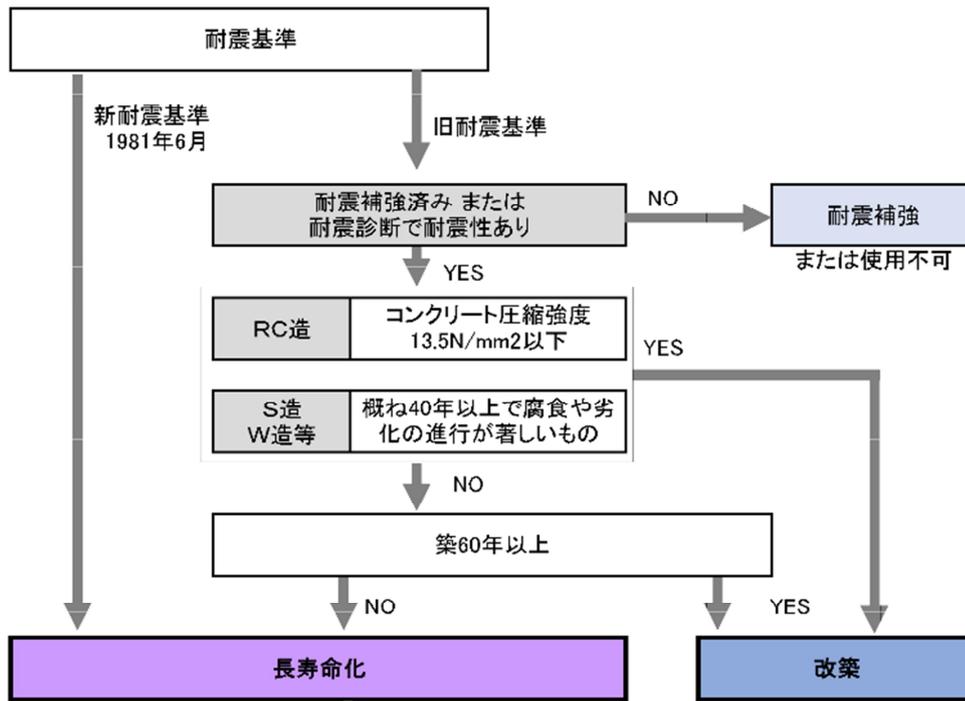


図 2-7 長寿命化可否判定と改修優先度 作業フロー

構造躯体の健全性の評価結果は次のとおりです。

(小学校)

学校名	施設名	棟番号 (*1)	構造	建築年		築年数 (*2)	耐震安全性			長寿命化判定			
				和暦	西暦		基準	診断	補強	調査年度 (*3)	圧縮強度 (N/mm ²)	試算上 の区分	
第一小学校	校舎	002-0	RC	S36	1961	64	旧	済	済	H8	35.3	改築	
		003-0	RC	S40	1965	60	旧	済	済	H8	24.2	改築	
		020-0	RC	S49	1974	51	旧	済	済	H15	17.5	長寿命	
		030-0	RC	S55	1980	45	旧	済	-	-	-	長寿命	
		029-0	RC	H11	1999	26	新	-	-	-	-	長寿命	
	体育館	013-0	S	S47	1972	53	旧	済	済	-	-	改築	
	第二小学校	校舎	001-0	RC	S34	1959	66	旧	済	済	H9	22.1	改築
			002-0	RC	S44	1969	56	旧	済	済	H9	23.8	長寿命
			003-0	RC	S46	1971	54	旧	済	済	H9	20.5	長寿命
			007-0	RC	S46	1971	54	旧	済	済	H9	20.5	長寿命
021-0			S	H15	2003	22	新	-	-	-	-	長寿命	
023-0			RC	S55	1980	45	旧	済	-	H15	45.0	長寿命	
体育館		022-0	RC	H17	2005	20	新	-	-	-	-	長寿命	
第三小学校	校舎	001-1	RC	S38	1963	62	旧	済	済	H10	27.5	改築	
		001-2	RC	S38	1963	62	旧	済	済	H10	27.5	改築	
		001-3	RC	S40	1965	60	旧	済	済	H10	22.9	改築	
		003-0	RC	S43	1968	57	旧	済	済	H10	22.2	長寿命	
		004-0	RC	S45	1970	55	旧	済	済	H10	18.8	長寿命	
		015-0	RC	S52	1977	48	旧	済	済	H15	33.9	長寿命	
	体育館	013-0	S	S48	1973	52	旧	済	済	-	-	改築	
第四小学校	校舎・ 体育館	020-1	RC	H22	2010	15	新	-	-	-	-	長寿命	
		023-0	RC	H22	2010	15	新	-	-	-	-	長寿命	
		024-1	RC	H22	2010	15	新	-	-	-	-	長寿命	
		024-2	RC	H22	2010	15	新	-	-	-	-	長寿命	
第五小学校	校舎	024-0	RC	H22	2010	15	新	-	-	-	-	長寿命	
		025-0	RC	H22	2010	15	新	-	-	-	-	長寿命	
体育館	026-0	RC	H23	2011	14	新	-	-	-	-	長寿命		
第六小学校	校舎	001-0	RC	S46	1971	54	旧	済	済	H11	18.5	長寿命	
		006-0	RC	S47	1972	53	旧	済	済	H11	25.7	長寿命	
		007-0	RC	S50	1975	50	旧	済	-	H15	30.8	長寿命	
		008-0	RC	S50	1975	50	旧	済	-	H15	23.4	長寿命	
	体育館	014-0	RC	R7	2025	0	新	-	-	-	-	長寿命	
体育館	009-0	S	S50	1975	50	旧	済	済	-	-	改築		
第七小学校	校舎	001-0	RC	S47	1972	53	旧	済	済	H15	23.2	長寿命	
		007-0	RC	S51	1976	49	旧	済	済	H15	26.1	長寿命	
		010-0	RC	S58	1983	42	新	-	-	-	-	長寿命	
		012-0	RC	H17	2005	20	新	-	-	-	-	長寿命	
	体育館	006-0	S	S50	1975	50	旧	済	済	-	-	改築	
第八小学校	校舎	001-1	RC	S51	1976	49	旧	済	済	H15	26.9	長寿命	
		001-2	RC	S51	1976	49	旧	済	済	H15	26.7	長寿命	
		002-0	RC	S53	1978	47	旧	済	済	H15	28.2	長寿命	
		012-0	RC	H20	2008	17	新	-	-	-	-	長寿命	
		013-0	RC	R3	2021	4	新	-	-	-	-	長寿命	
	014-0	RC	R3	2021	4	新	-	-	-	-	長寿命		
体育館	006-0	S	S51	1976	49	旧	済	済	-	-	改築		
第九小学校	校舎	001-0	RC	S57	1982	43	新	-	-	-	-	長寿命	
		008-0	RC	R7	2025	0	新	-	-	-	-	長寿命	
		009-0	S	R7	2025	0	新	-	-	-	-	長寿命	
	体育館	007-0	S	S57	1982	43	新	-	-	-	-	改築	
第十小学校	校舎	001-0	RC	H12	2000	25	新	-	-	-	-	長寿命	
	体育館	002-0	RC	H12	2000	25	新	-	-	-	-	長寿命	

凡例 構造・RC:鉄筋コンクリート造、S:鉄骨造

(*1)棟番号は、学校施設台帳にて建物ごとに付している番号である

(*2)築年数は令和7(2025)年度を基準とした

(*3)調査年度は耐震診断を実施した年度である

表 2-3 構造躯体の健全性の評価結果(小学校)

(中学校)

学校名	施設名	棟番号 (*1)	構造	建築年		築年数 (*2)	耐震安全性			長寿命化判定			
				和暦	西暦		基準	診断	補強	調査年度 (*3)	圧縮強度 (N/mm ²)	試算上 の区分	
中学校	第一中学校	校舎・ 体育館	026-0	RC	H18	2006	19	新	—	—	—	—	長寿命
			027-1	RC	H18	2006	19	新	—	—	—	—	長寿命
			027-2	RC	H18	2006	19	新	—	—	—	—	長寿命
			027-4	RC	H18	2006	19	新	—	—	—	—	長寿命
			028-0	RC	H18	2006	19	新	—	—	—	—	長寿命
	第二中学校	校舎	001-1	RC	S40	1965	60	旧	済	済	H11	22.8	長寿命
			001-2	RC	S41	1966	59	旧	済	済	H11	24.7	長寿命
			001-3	RC	S41	1966	59	旧	済	済	H11	25.9	長寿命
			002-0	RC	S42	1967	58	旧	済	済	H11	25.8	長寿命
			010-0	RC	S48	1973	52	旧	済	済	H15	15.3	長寿命
			011-0	RC	S50	1975	50	旧	済	済	H15	12.8	改築
			012-0	RC	S50	1975	50	旧	済	済	H15	19.0	長寿命
		017-0	S	S58	1983	42	新	—	—	—	—	長寿命	
		武道場	022-1	RC	H4	1992	33	新	—	—	—	—	長寿命
	体育館	022-2	S	H4	1992	33	新	—	—	—	—	長寿命	
	第三中学校	校舎	001-0	RC	S48	1973	52	旧	済	済	H15	13.7	長寿命
			006-1	RC	S51	1976	49	旧	済	済	H15	35.5	長寿命
			006-2	RC	S54	1979	46	旧	済	済	H15	35.5	長寿命
		体育館	005-0	S	S51	1976	49	旧	済	済	—	—	改築
		武道場	009-0	RC	H3	1991	34	新	—	—	—	—	長寿命
第四中学校	校舎	001-1	RC	S52	1977	48	旧	済	済	H15	24.3	長寿命	
		001-2	RC	S52	1977	48	旧	済	済	H15	23.5	長寿命	
		009-0	RC	S57	1982	43	新	—	—	—	—	長寿命	
	体育館	007-0	S	S52	1977	48	旧	済	済	—	—	改築	
第五中学校	校舎	001-1	RC	S53	1978	47	旧	済	済	H15	30.1	長寿命	
		001-2	RC	S54	1979	46	旧	済	済	H15	32.1	長寿命	
	体育館	002-0	S	S54	1979	46	旧	済	済	—	—	改築	

凡例 構造・・RC:鉄筋コンクリート造、S:鉄骨造
 (*1)棟番号は、学校施設台帳にて建物ごとに付している番号である
 (*2)築年数は令和7(2025)年度を基準とした
 (*3)調査年度は耐震診断を実施した年度である

表 2-4 構造躯体の健全性の評価結果(中学校)

(2)構造躯体以外の劣化状況の評価

学校施設の屋根・屋上、外壁、内部仕上げ、電気設備・機械設備の各部位ごとの劣化状況調査を、目視調査を主体として行いました。調査に当たっては、目視では確認できない学校施設の不具合について学校からヒアリングを行ったほか、教育委員会で学期ごとに行っている点検の内容を確認の上、現地調査を実施しました。

そして現地調査結果に加えて、過去の改修履歴及び改修からの経過年数を踏まえ、総合的に劣化状況の評価を行いました。

ア. 現地調査の内容

現地調査に当たっては、部位毎に以下の視点をもって行いました。

部位	調査の視点
屋根・屋上	<ul style="list-style-type: none">・最上階の天井に雨漏りがないか。雨漏りが原因と思われるシミ、カビがないか。・屋上防水に、膨れ、剥がれ、破れ、穴開きがないか。・金属屋根に、錆、損傷、腐食がないか。
外壁	<ul style="list-style-type: none">・コンクリートが剥落し、鉄筋が露出している箇所はないか。・室内側に雨漏りと思われるシミ垂れ、塗装の剥がれがないか。・外装材(モルタル・タイル・吹き付け材などの仕上げ材)に、亀裂、浮き、剥離、ひび割れ及び破損がないか。・建具枠、蝶番などの腐食、変形、ぐらつきがないか。・窓枠と外壁との隙間に施されているシーリング材に硬化、切れ、剥がれがないか。
内部仕上げ	<ul style="list-style-type: none">・床、壁、天井にコンクリートの亀裂、ボード類の浮き、損傷がないか。・天井ボードの落下や床シートの剥がれなどにより安全性が損なわれているところがないか。
電気設備・ 機械設備	<ul style="list-style-type: none">・機器や架台に錆、損傷、腐食がないか。・漏水、漏油がないか。・使用水に赤水、異臭がないか。・機器から異音はしていないか。

表2-5 現地調査の視点

イ. 評価方法

評価は、文部科学省の「学校施設の長寿命化計画の見直しに向けたコスト試算等に係る解説書」（令和5(2023)年3月)を参考に、長寿命化基本方針と同様、A、B、C、Dの4段階で行い、部位の評価点とコスト配分から部位ごとに健全度を算定しました。

屋根・屋上、外壁、内部仕上げは、目視調査を行い、また、電気設備・機械設備は、目視だけでは劣化の状況が判断できないため、設置や改修してからの経過年数を用いて、それぞれ下記の評価基準に基づき評価しました。

【屋根・屋上、外壁、内部仕上げ評価】		【電気設備・機械設備の評価】	
評価	目視による評価基準	評価	経過年数による評価基準
A	概ね良好	A	20年未満
B	部分的に劣化	B	20～40年
C	広範囲に劣化	C	41年以上
D	早急に対応する必要がある	D	経過年数に関わらず著しい劣化事象

①部位の評価点	
	評価点
A	100
B	75
C	40
D	10

②部位のコスト配分	
部位	コスト配分
1 屋根・屋上	5.1
2 外壁	17.2
3 内部仕上げ	22.4
4 電気設備	8
5 機械設備	7.3
計	60.0

③健全度	
$\text{総和（部位の評価点} \times \text{部位のコスト配分）} \div 60$	
※100点満点にするためにコスト配分の合計値で割っている。 ※健全度は、数値が小さいほど劣化が進んでいることを示す。	

<健全度計算例>

部位	評価	評価点	配分	計算
1 屋根・屋上	C	40	5.1	204
2 外壁	D	10	17.2	172
3 内部仕上げ	B	75	22.4	1,680
4 電気設備	A	100	8	800
5 機械設備	C	40	7.3	292
計				3,148
				÷ 60
健全度				52

出典:朝霞市長寿命化基本方針(令和2(2020)年3月)

図 2-8 各部位の評価基準と健全度の算出方法

ウ. 劣化状況の評価結果

各学校施設における、構造躯体以外の各部位の評価及び健全度は、表のとおりです。

(小学校)

(※1)校舎内の放課後児童クラブの面積は主校舎に含む
 (※2)朝霞市の学校施設耐震化状況一覧 H25(2013)より
 (※3)朝霞市学校施設長寿命化基本方針より

学校名	施設番号	建物区分	構造階数	延べ面積(※1)	建築年		築年数	耐震改修年度(※2)	圧縮強度(N/mm ²)(※3)	躯体以外の劣化状況(令和6年度調査結果)					
					西暦	和暦				屋根	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備	健全度
一小	002	校舎	RC造3F	626 m ²	1961	S 36	64	1999	35.3	C	D	C	B	B	40
一小	003	校舎	RC造3F	1,079 m ²	1965	S 40	60	2000	24.2	D	D	D	B	B	27
一小	020	校舎	RC造4F	3,467 m ²	1974	S 49	51	2005	17.5	D	D	D	B	B	27
一小	030	校舎	RC造3F	71 m ²	1980	S 55	45	耐震性有	-	C	A	A	-	B	79
一小	029	校舎	RC造3F	1,590 m ²	1999	H 11	26	新耐震	-	C	C	C	B	B	49
一小	013	体育館	S造2F	805 m ²	1972	S 47	53	2007	-	C	C	C	B	B	49
二小	001	校舎	RC造3F	1,227 m ²	1959	S 34	66	2002	22.1	C	C	C	B	B	49
二小	002	校舎	RC造3F	1,059 m ²	1969	S 44	56	2001	23.8	D	C	D	B	B	35
二小	003	校舎	RC造4F	1,856 m ²	1971	S 46	54	2003	20.5	C	D	C	B	C	36
二小	007	校舎	RC造4F	565 m ²	1971	S 46	54	2003	20.5	D	D	C	B	B	38
二小	021	校舎	S造1F	38 m ²	2003	H 15	22	新耐震	-	B	C	C	B	-	43
二小	022	校舎	RC造2F	320 m ²	2005	H 17	20	新耐震	-	C	C	B	B	B	62
二小	023	校舎	RC造3F	110 m ²	1980	S 55	45	耐震性有	45.0	C	C	C	B	B	43
二小	012	体育館	S造2F	812 m ²	1973	S 48	52	2007	-	B	C	C	B	B	52
三小	001-1	校舎	RC造3F	1,003 m ²	1963	S 38	62	2003	27.5	D	C	D	B	B	35
三小	001-2	校舎	RC造3F	210 m ²	1963	S 38	62	2003	27.5	C	C	C	B	B	49
三小	001-3	校舎	RC造3F	212 m ²	1965	S 40	60	2003	22.9	C	C	B	B	B	62
三小	003	校舎	RC造3F	1,095 m ²	1968	S 43	57	2002	22.2	C	B	C	B	B	59
三小	004	校舎	RC造3F	1,297 m ²	1970	S 45	55	2002	18.8	C	B	C	B	B	59
三小	015	校舎	RC造4F	1,857 m ²	1977	S 52	48	2005	33.9	D	C	C	C	C	37
三小	013	体育館	S造2F	816 m ²	1973	S 48	52	2008	-	C	C	C	B	B	49
四小	020-1	校舎	RC造4F	9,395 m ²	2010	H 22	15	新耐震	-	C	C	C	A	A	55
四小	023	体育館	RC造2F	1,675 m ²	2010	H 22	15	新耐震	-	-	C	C	A	A	46
四小	024-1	校舎	RC造2F	420 m ²	2010	H 22	15	新耐震	-	C	C	A	A	A	78
四小	024-2	校舎	RC造2F	392 m ²	2010	H 22	15	新耐震	-	C	B	C	B	C	55
五小	024	校舎	RC造5F	11,579 m ²	2010	H 22	15	新耐震	-	C	C	C	A	A	55
五小	025	校舎	RC造1F	565 m ²	2010	H 22	15	新耐震	-	-	C	A	A	A	74
五小	026	体育館	RC造4F	2,131 m ²	2011	H 23	14	新耐震	-	C	C	C	A	A	55
六小	001	校舎	RC造4F	2,870 m ²	1971	S 46	54	2004 2005	18.5	C	C	C	B	C	45
六小	006	校舎	RC造4F	1,485 m ²	1972	S 47	53	2004 2005	25.7	D	C	C	B	C	42
六小	007	校舎	RC造2F	249 m ²	1975	S 50	50	耐震性有	30.8	C	D	C	B	C	36
六小	008	校舎	RC造4F	886 m ²	1975	S 50	50	耐震性有	23.4	C	C	C	B	B	49
六小	014	校舎	RC造4F	1,834 m ²	2025	R 7	0	新耐震	-	A	A	A	A	A	100
六小	009	体育館	S造2F	819 m ²	1975	S 50	50	2008	-	C	C	C	B	C	45
七小	001	校舎	RC造4F	2,794 m ²	1972	S 47	53	2006	23.2	D	C	C	B	B	46
七小	007	校舎	RC造4F	1,577 m ²	1976	S 51	49	2006	26.1	C	C	D	C	B	33
七小	010	校舎	RC造4F	761 m ²	1983	S 58	42	新耐震	-	C	C	C	B	B	49
七小	012	校舎	RC造3F	503 m ²	2005	H 17	20	新耐震	-	C	C	C	C	A	44
七小	006	体育館	S造2F	809 m ²	1975	S 50	50	2008	-	C	C	C	A	A	55
八小	001-1	校舎	RC造4F	2,784 m ²	1976	S 51	49	2004	26.9	C	C	D	B	C	33
八小	001-2	校舎	RC造4F	1,583 m ²	1976	S 51	49	2004	26.7	D	C	C	B	C	42
八小	002	校舎	RC造4F	411 m ²	1978	S 53	47	2004	28.2	C	C	C	B	B	49
八小	012	校舎	RC造4F	786 m ²	2008	H 20	17	新耐震	-	C	C	C	B	B	49
八小	013	校舎	RC造4F	1,152 m ²	2021	R 3	4	新耐震	-	A	A	A	A	A	100
八小	014	校舎	RC造2F	509 m ²	2021	R 3	4	新耐震	-	-	-	-	-	-	-
八小	006	体育館	S造2F	840 m ²	1976	S 51	49	2008	-	C	C	C	B	A	55
九小	001	校舎	RC造4F	3,604 m ²	1982	S 57	43	新耐震	-	D	D	D	B	B	27
九小	007	体育館	S造2F	940 m ²	1982	S 57	43	新耐震	-	C	C	C	B	B	49
九小	008	校舎	RC造2F	1,049 m ²	2025	R 7	0	新耐震	-	A	A	A	A	A	100
九小	009	校舎	S造4F	72 m ²	2025	R 7	0	新耐震	-	A	A	A	A	A	100
十小	001	校舎	RC造4F	8,306 m ²	2000	H 12	25	新耐震	-	D	C	C	B	C	42
十小	002	体育館	RC造2F	1,240 m ²	2000	H 12	25	新耐震	-	D	C	C	B	C	42

表 2-6 学校施設の老朽化状況の結果一覧(1/2)

(中学校)

0(※1)校舎内の放課後児童クラブの面積は主校舎に含む
 (※2)朝霞市の学校施設耐震化状況一覧 H25(2013)より
 (※3)朝霞市学校施設長寿命化基本方針より

学校名	施設番号	建物区分	構造階数	延べ面積(※1)	建築年		築年数	耐震改修年度(※2)	圧縮強度(N/mm2)(※3)	躯体以外の劣化状況(令和6年度調査結果)					健全度
					西暦	和暦				屋根屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備	
一中	026	校舎	RC造4F	7,008 m ²	2006	H 18	19	新耐震	-	C	B	B	A	B	75
一中	027-1	校舎	RC造4F	4,523 m ²	2006	H 18	19	新耐震	-	B	B	A	A	B	88
一中	027-2	校舎(武道場)	RC造4F	468 m ²	2006	H 18	19	新耐震	-	B	B	B	A	A	81
一中	027-4	体育館	RC造4F	308 m ²	2006	H 18	19	新耐震	-	B	B	A	A	-	79
一中	028	体育館	RC造2F	1,528 m ²	2006	H 18	19	新耐震	-	C	A	B	A	B	83
二中	001-1	校舎	RC造3F	1,218 m ²	1965	S 40	60	2004	22.8	D	D	D	B	C	22
二中	001-2	校舎	RC造3F	891 m ²	1966	S 41	59	2004	24.7	C	D	B	B	B	53
二中	001-3	校舎	RC造2F	321 m ²	1966	S 41	59	2004	25.9	B	D	C	B	-	34
二中	002	校舎	RC造2F	1,502 m ²	1967	S 42	58	2004	25.8	D	D	D	B	B	27
二中	010	校舎	RC造3F	1,034 m ²	1973	S 48	52	2006	15.3	C	C	C	C	B	44
二中	011	校舎	RC造3F	591 m ²	1975	S 50	50	2005	12.8	D	C	B	B	B	59
二中	012	校舎	RC造2F	648 m ²	1975	S 50	50	2006	19.0	D	C	C	B	C	42
二中	017	校舎	S造1F	35 m ²	1983	S 58	42	新耐震	-	C	A	B	B	-	70
二中	022-1	武道場	RC造2F	903 m ²	1992	H 4	33	新耐震	-	D	C	C	B	B	46
二中	022-2	体育館	S造2F	1,328 m ²	1992	H 4	33	新耐震	-	D	D	C	C	B	33
三中	001	校舎	RC造4F	4,215 m ²	1973	S 48	52	2006	13.7	C	D	C	B	B	40
三中	006-1	校舎	RC造4F	1,062 m ²	1976	S 51	49	2006	35.5	C	D	D	B	B	29
三中	006-2	校舎	RC造4F	1,011 m ²	1979	S 54	46	2006	35.5	C	C	C	C	B	44
三中	005	体育館	S造2F	1,329 m ²	1976	S 51	49	2008	-	B	C	D	B	B	41
三中	009	武道場	RC造2F	723 m ²	1991	H 3	34	新耐震	-	D	D	C	B	B	38
四中	001-1	校舎	RC造4F	1,878 m ²	1977	S 52	48	2006	24.3	C	C	C	B	C	45
四中	001-2	校舎	RC造4F	2,690 m ²	1977	S 52	48	2006	23.5	C	C	D	C	C	29
四中	009	校舎	RC造4F	773 m ²	1982	S 57	43	新耐震	-	C	D	C	B	C	36
四中	007	体育館	S造2F	1,460 m ²	1977	S 52	48	2006	-	C	C	D	B	B	38
五中	001-1	校舎	RC造4F	2,152 m ²	1978	S 53	47	2005	30.1	C	D	C	B	B	40
五中	001-2	校舎	RC造4F	2,039 m ²	1979	S 54	46	2005	32.1	C	D	C	B	B	40
五中	002	体育館	S造2F	1,494 m ²	1979	S 54	46	2007	-	C	C	D	B	C	33

表 2-7 学校施設の老朽化状況の結果一覧(2/2)

屋根・屋上、外壁、内部仕上げは、広範囲に劣化(C評価)が多いことがわかりました。また、電気設備・機械設備は、設置や改修してからの経過年数が20年から40年(B評価)のものが多いことがわかりました。

(3)学校施設の老朽化状況の総評

構造躯体の健全性評価

改築等を判定する構造躯体の健全性評価では、第二中学校の校舎(棟番号 011-0)は、耐震診断時のコンクリート圧縮強度が長寿命化対象施設の判定値である $13.5\text{N}/\text{mm}^2$ を下回るため、「改築」と判定しました。

朝霞市の学校施設は旧耐震基準の全ての建物について耐震診断を行っております。そして、診断の結果、耐震性がないと判定された学校施設は、第二中学校の校舎(棟番号 011-0)を含め、全て耐震補強が完了しており、学校施設の安全性は確保しています。

また、第一小学校の校舎(棟番号 002-0、003-0)や第二小学校の校舎(001-0)など、合計16棟の建物が、築年数(RC造60年、S造40年)を超えたため、「改築」と判定しました。

構造躯体以外の劣化状況の評価

構造躯体以外(屋根・屋上、外壁、内部仕上げ、電気設備、機械設備)の劣化状況については、屋根・屋上、外壁及び内部仕上げでC評価(広範囲に劣化)が多く、早期に計画的な改修が必要な状況です。

また、電気設備、機械設備では、設置や改修からの経過年数により、設備ごとの標準耐用年数を踏まえて改修・更新周期を検討し、計画的に改修・更新を行うことが必要です。

総評

今回の調査の結果、屋根・屋上、外壁、内部仕上げについては、広範囲に劣化がみられ、安全面や機能面において早急に対応が必要な部分も確認されました。

特に、第一小学校、第二小学校、第三小学校、第二中学校は、経年劣化が進行しており、このため健全度が全体的に低くなっています。築年数も古いため長寿命化の時機を逸していると考えられ、最優先で「改築」を行うことが望ましいと考えられます。